

賀川豊彦の軌跡と奇跡—協同組合運動への結実

福島 利夫

はじめに

2022年1月5日（水）、私たち一行（専修大学人文科学研究所2021年度第2回総合研究調査旅行参加者）は兵庫県の明石大橋を専用バスで渡り、淡路島を経由して徳島県鳴門市にある鳴門市賀川豊彦記念館を訪れた。

出発点として、ここで取りあげようとする、「生協・協同組合の父」と呼ばれる「賀川豊彦」という人物は一般にどの程度知られているのだろうか。賀川の全容を知れば知るほど、その奥深さには驚かされるのだが、同じく広範囲の分野にわたる会社設立などの事業展開によって「近代日本経済の父」、あるいは「日本資本主義の父」とも称されている渋沢栄一と比較してみたくなる。

渋沢は2024年には一万円札の紙幣肖像として世間一般に登場することになったために、彼が主人公である2021年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」も放映の運びとなった。ただ、テレビドラマとしての興業を図るために、主役の「渋沢栄一」に、光り輝くばかりの美男子（今風に言うならば、トビキリのイケメン）である吉沢亮を起用している。史実上の渋沢自身が、いくら艶福家として名をはせていたとしても、これには本人も苦笑せざるを得ないだろう。

テキスト風の日本通史である佐藤真他編『詳説日本史研究』（山川出版社、2017年）では、**渋沢栄一**（1840～1931）は**伊藤博文**（1841～1909）らと中心になって、1872年に**国立銀行条例**を發布し、これによって第一国立銀行をはじめとして、各地に民間の国立銀行が設立された（p.338）と記述されている。これに対して、賀川豊彦（1888～1960）は杉山元治郎（1885～1964）らと、1922年に**日本農民組合**を結成し、農民運動に指導的役割を果たした（p.428）との記述である。両者ともに、その功績の一部分に光を当てたにすぎない紹介であるが、当該書での表記法による区別をここでもそのまま採用したが、渋沢の氏名はゴシックで強調されているが、賀川の氏名にはその強調もない。

他方で、近年、協同組合が新たに注目を集めている。2012年は国連の国際協同組合年であった。さらに、2016年にはユネスコ（UNESCO : United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization <国連教育科学文化機関>）が協同組合を無形文化遺産と登録している。

それとともに、国連が主導して、世界中の貧困根絶をめざす運動が取り組まれている。出発点は、2000年の国連総会での「世界の貧困をなくす」という「国連ミレニアム宣言」である。

それは「2015 年までに、貧困や飢餓にある人びとの人口を半減する」という約束であって、2001 年には「ミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）」が定められた。貧困をなくし、尊厳を持って生きることができるために 8 つの目標、目標達成のために 21 のターゲットが設定され、さらにターゲットの達成度を測るために 60 の指標が設けられた。

MDGs に続いて、2015 年の国連サミットで「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」が定められた。達成期限は 2030 年である。同じく、17 の目標と 169 のターゲットが設定されている。SDGs の対象は MDGs とは違って、開発途上国だけではなく、先進国も含めたすべての国である。ただし、目標数が多く、その相互の関連性や実現性については議論の余地が多く、ご都合主義の取りあげ方で「SDGs ウォッシュ」⁽¹⁾ と呼ばれるものもある。これに対して、賀川豊彦の広範囲にわたる活動は SDGs の先取りとも考えられ、大いに学ぶべきであろう。

また、ポスト資本主義をめぐる議論と社会運動のなかで、協同組合の果たす今後の役割と可能性について検討することが求められている。

日本においても、21 世紀に入ってから格差社会と貧困、2011 年の東日本大震災と原発事故は大きな社会問題をもたらしている。

こうした状況の下で、賀川豊彦の軌跡と奇跡を取りあげてみたい。以下に示すのは、賀川の生い立ちからの軌跡に沿う形で、5 カ所の賀川豊彦記念館の誕生、それらの設立の経緯とその後の展開を追うことにする。

一 賀川豊彦の軌跡と奇跡を 5 カ所の賀川豊彦記念館⁽²⁾の様相から読み解く

改めて、行論を先取りして賀川豊彦の人間像を示してみよう。その生涯を貫く性格を一言で表現すれば、明治・大正・昭和期のキリスト教社会運動家・社会改良家と考えるのが最も適切だろう。貧民救済運動から始まって、社会福祉事業、児童福祉事業、労働運動、農民運動、無産政党樹立運動、協同組合運動、協同組合保険（共済）運動、さらに平和運動が挙げられる。また、著作として、百万部を超えるベストセラーとなった自伝風小説『死線を越えて』を含め、『賀川豊彦全集』全 24 巻（キリスト新聞社）がある。これらの広範囲にわたる社会実践から、賀川は日本人初のノーベル文学賞やノーベル平和賞の候補にもなった。また、1999 年に国連が採択した「子どもの権利条約」の下、ユニセフ国連児童基金の『世界児童白書』において、「子どもの最善の利益を守るリーダー」として、世界の 52 人の一人に選ばれている。

賀川が関わってきたさまざまな社会運動の中でも、現代にも継続している代表的なものとして、（消費）生活協同組合運動を中心とした協同組合運動がある。この協同組合運動に典型的に

現れているように、これらの種々の社会運動の淵源にはキリスト者としての「愛と協同」⁽³⁾ に対する伝道者の強い想いが存在する。

肺結核という当時の不治の病が悪化し、療養、入院と手術、危篤を繰り返して、余命いくばくも無いような身体で、どうせなら最後は貧しい人々の役に立つことで人生を終わりたいと思い立ち、21歳の時、神戸のスラム街（貧民窟）に移住を決意した。ところが、結果的にはこの捨て身の献身と伝道であったスラム街生活は死をもたらさなかった。これはまさに奇跡であり、イエス・キリストの復活・再臨をも思わせる出来事である。「スラム街の聖者」とも呼ばれた所以である。

以下に見る、5カ所の賀川豊彦記念館は、それらの設立の経緯、立地、財政的基盤、運営方式、主とする事業内容の規模と性格が多様であり、それぞれに個性的な特徴を備えている。と同時に、賀川豊彦記念館としての主張を持っている点では共通しており、相互に連携を保っている。

1. 鳴門市賀川豊彦記念館

まずは、今回訪問した鳴門市賀川豊彦記念館である。5館の中では歴史的には最も新しい存在である。本記念館は鳴門市営の記念館であり、一般社団法人うずしお観光協会が指定管理者として運営している。鳴門市の公式ウェブサイトでは、文化施設の一つとして案内されている。しかし鳴門市（人口は約5万5千人）の財政状況は極めて厳しい面があるため、記念館の建設運動に携わってきた人たちが、NPO（非営利活動）法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会をつくり、継続的に鳴門市賀川豊彦記念館の健全な運営を援助し、ボランティア活動を推進している。なお、2021年6月には、徳島県によって認定特定非営利活動法人に認定されている。館内は、1階に第1展示室「生い立ちとふるさと徳島」、第2展示室「賀川豊彦の生涯と事業」、2階に第3展示室 阿波農民福音学校の再現と図書・資料、大会議室から構成されている。

鳴門市賀川豊彦記念館の建設は明石海峡大橋が契機となっている。賀川豊彦生誕110年となる1998年に、賀川が生まれた神戸と父の故郷であり、5歳から17歳まで過ごした鳴門が明石海峡大橋で結ばれることになるということから、賀川の業績を知ること、21世紀を生きる人たちに友愛と互助の精神を受け継いでもらおうと、県内の有志が集結する。1996年に「賀川豊彦鳴門記念館設立を目指す会」を立ち上げ、さらに1999年には寄附金募集のための建設実行委員会が発足し、全国から集まった約1億2千万円の寄附金で記念館は建設された。そして、2002年春に完成した記念館は鳴門市へ寄贈された。

鳴門市は賀川豊彦の原点である。豊彦の父賀川純一は養子として賀川家に15歳で婿入りしたが、神戸で賀川回漕店（主に阿波の名産である藍の運送）を経営していた。母は徳島で芸妓を

していた菅生かめであり、次男として生まれたのが豊彦（1888年生）である。そして、本妻みちとの間にも子ども2人がいたが幼くして亡くなっている。そこで、豊彦は大庄屋である賀川家の跡取り、本妻の子として入籍していた。

豊彦が4歳のときに、父が赤痢で亡くなり（享年44歳）、その約2カ月後に母が亡くなった。豊彦は姉と2人で徳島の本家に引きとられたが、本妻であった継母は豊彦が10歳になるまで口を利くこともなかった。「愛」のない少年時代であり、家でも近隣でも、「妾（メカケ）の子」と蔑まれる日常を過ごす。また、7歳の時には赤痢に感染している。

1900年に旧制徳島中学校に入学し、寄宿舎に入る。1901年に肺結核の診断を受け、その後の病苦の始まりとなる。寄宿舎を出て、徳島中学の英語教師である片山政吉が経営している英語塾に移る。クリスチャンであった片山を通じて、アメリカ人宣教師のローガンとマヤスにめぐり合う。豊彦が初めて教会を訪れたのは1902年である。

1903年、兄の放蕩により賀川家は破産し、授業料すら払えなくなり、豊彦は叔父の森家に引きとられる。1904年、マヤスにより、キリスト教の洗礼を受ける。この頃、キリスト教社会主義に共感を覚えるとともに、トルストイの反戦思想にも影響を受け、1905年、卒業間近に野外軍事教練を拒否し、教官に殴り倒される。そして、伝道師を志望して卒業後の明治学院高等部神学予科への入学が決まると、キリスト教嫌いの叔父は豊彦を家から追い出したので、入学するまでマヤスの家に身を寄せた。旧家の長男が異教であるキリスト教徒になるなどは考えられなかった時代である。さらに、東京にいる叔父の永井も豊彦の世話を拒絶した。それに対してマヤスが学資の援助を約束してくれたので明治学院高等部神学予科に給費生として入学できた。

2. 社会福祉法人 イエス団・神戸賀川記念館

社会福祉法人 イエス団・神戸賀川記念館（所在地：神戸市中央区）は、賀川豊彦が1907年9月にマヤスの開校した神戸神学校に入ったことが発端である。1907年3月明治学院神学予科を修了し、9月に開校するマヤスの神戸神学校へ転校を決める。9月まで愛知県で教会を手伝うなかで結核が悪化して危篤に陥るが奇跡的に回復する。神戸神学校に入ってから、病状が悪化して療養中に回復し、しばらくしてまた繰り返すなかで、1908年10月に復校するも病苦は続く。

1909年9月に神戸のスラム街で路傍伝道を行い、そこからいよいよ決意して死地を求める覚悟で、12月24日キリストの誕生を祝う降誕祭が始まるクリスマスイブの日に神学校の寮を出て、神戸市葺合新川のスラム街へ転居する。5軒長屋の1軒で表が3畳、奥が2畳で畳はなく、床板が露出しており、前年の殺人事件で飛び散った血痕の跡があちこちに残っているために借り手がつかない物件である。その周辺300メートル四方、約2万7千坪の地域一帯は、どん底

生活の約6千人が密集する日本でも最大級のスラム街である。阿鼻叫喚の地獄絵図がここに現出していた。しかし、早くも12月27日には近所の木賃宿の広間を借りてクリスマスパーティを開き、昼間は集まってきた子どもたちにマヤスから送られたおもちゃを分け与え、夜は大人に菓子と手ぬぐいを配っている。こうして、路傍伝道にとどまらず、スラム街の一角に居住して、近隣生活まるごとを対象にした伝道と救貧の隣保活動に没入していく日々が始まった。翌年(1910年)1月2日に初めての礼拝を行い、5畳一間の自宅兼伝道所を救霊團きゅうれいだんと名付ける。貧困をなくすためには、魂の救済と社会構造の変革が必要であると感じた。

1911年には、後に賀川豊彦の妻となる芝ハルとの出会いがある。ハルが勤務していた印刷工場の月曜礼拝で讃美歌を指導に来たのが豊彦である。そこから始まり、1912年12月にはハルはマヤス牧師により受洗する。そして、豊彦の活動を助けるなかで、1913年5月27日に2人は結婚する。1914年3月になって、救霊團きゅうれいだんからイエス団に名称を変更して事業活動を広げようと考えていた矢先に、マヤス紹介のアメリカ人篤志家からの送金が中止された。これを契機に、豊彦はアメリカで学ぶことを決意し、9月にプリンストン大学・同神学校に奨学金を受けて入学する。同時にハルは、9月に横浜の共立女子神学校に入学する。

豊彦は1916年にニューヨークでスラムを視察し、その時に労働組合のデモ行進に出会う。そして、1917年にはユタ州オグデンで小作人組合を立ち上げ、団体交渉に成功する。その後、5月に帰国となる。

それから、1922年には財団法人イエス団を組織して内務大臣より許可を受ける。初代理事長は賀川豊彦である。戦後になって、1954年に社会福祉法人イエス団設立が認可される。同じく、初代理事長は賀川豊彦である。続いて、1979年に学校法人イエス団が設立され、認可される。これによって、現在の社会福祉法人・学校法人イエス団ができあがる。イエス団とは、イエス・キリストを中心にまとまっている仲間であり、1909年を出発点(英語表記では、Jesus band since 1909)としており、その90年後のイエス団憲章は以下のように謳っている。

「 イエス団憲章

私たちは賀川豊彦献身90年にあたりここに憲章を定める

賀川豊彦は1909年12月24日に

当時の社会的矛盾からくる社会悪とたたかい、

最微者さいびしや(いと小さき者)に仕えるために事業をおこし、

多くの賛同者にまもられ今日に到った。

そこで21世紀を生きる私たちイエス団に連なる一同は、

イエス・キリストの贖罪愛に触れ、
それを実践することを終生貫き通した
賀川豊彦の精神を引き継ぐものである。

一、私たちは、賀川豊彦が実践した Settler（地域に生きる
人々と共に歩む者）の精神を引き継ぐ。

一、私たちは、自立と相互扶助を目指した開拓的・
実験的事業の精神を引き継ぐ。

一、私たちは、地域を越え、国境を越えて共に生きる
平和な世界の実現に努めた精神を引き継ぐ。

1999 年 12 月 24 日 』

なお、現在の神戸賀川記念館は 2009 年に建てられたもので、4 階建ての館内は以下のような構成になっている。

- 1 階 社会福祉法人・学校法人イエス団法人本部、医療テナント
 - 2 階 幼保連携型認定こども園友愛幼児園、放課後等デイサービス・くじらぐも
 - 3 階 幼保連携型認定こども園友愛幼児園、児童発達支援・くっく
 - 4 階 賀川記念館、日本基督教団神戸イエス団教会
- このように、社会福祉法人・学校法人イエス団が土台（1 階）になっている。

さらに、神戸賀川記念館のウェブサイト上の賀川豊彦資料室は充実していて魅力的である。
賀川豊彦の国内での著作一覧、海外での主な著作一覧、賀川豊彦が書いた履歴書や、新聞記事
に見る賀川豊彦、賀川豊彦の英語での講演も含めた音声データ、英文の Kagawa Archives まで
見ることができる。

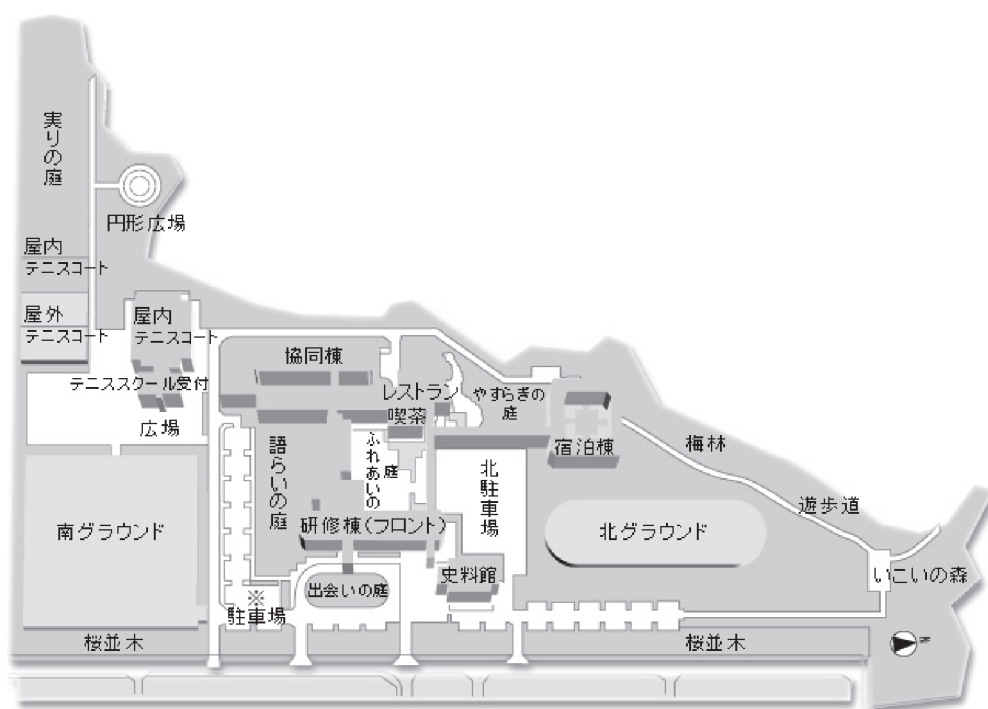
3. コープこうべ 協同学苑史料館

コープこうべ協同学苑史料館（所在地：兵庫県三木市）は、灘神戸生活協同組合が創立 70
周年を機に現在の「生活協同組合コープこうべ」に改称した 1991 年に開設された、「協同学苑」
のゆったりとした敷地内の一角に建設された「史料館」である。

「協同学苑」はそのウェブサイトによれば、「人との出会い・自然との出会い・新しい自分との出会い」をコンセプトにし、「学びと交流、そしてくつろぎの空間」として、三木市の自然豊かな広大な敷地に建てられた多目的施設である。

図1を見ればわかるように、研修棟、協同棟、宿泊棟と並んで史料館がある。それ以外に、レストラン、グラウンド、テニスコート、桜並木、梅林、遊歩道森や庭園もある。そして、文化、福祉・介護、スポーツの案内として、コープカルチャー協同学苑、コープこうべの福祉講座、コープこうべ協同学苑テニススクールも開いている。

図1 苑内マップ



※ 大型バス駐車場 (3台まで)

出所:「コープこうべ協同学苑」ウェブサイト

さて、史料館であるが、協同組合の発祥地であるイギリスのロッチデールの「ロッチデール公正開拓者組合」記念館をイメージして建てられた。写真1で見るように、1階正面エントランスには、縦に大きく「一人は万人のために 万人は一人のために」と書かれたものが掲示されている。その下部には、英字で「Each for All All for Each」と表示がある。そして、1階はコープこうべの展示ホール、2階は賀川豊彦の特別展示室となっている。

写真 1 史料館 1 階正面エントランス



出所：図 1 に同じ

上記の協同学苑史料館の元である生活協同組合コープこうべ（所在地：神戸市東灘区）は、労働者の生活安定をめざし、お互いに協同して生活を守り合う消費組合の創設を賀川豊彦が考えたことから始まる。

発祥地の神戸に同時期に相次いで 2 つの購買組合が誕生した。1921 年 4 月に賀川を中心にした神戸購買組合（1924 年神戸消費組合に改称）が創立される。続いて同年 5 月に賀川の指導の下に、実業家の那須善治によって灘購買組合（1935 年灘購買利用組合に改称）が創立される。その後、戦後の消費生活協同組合法により、1949 年には灘購買利用組合が灘生活協同組合に、1950 年には神戸消費組合が神戸生活協同組合に、それぞれ改称された。そして 1962 年に、灘生活協同組合と神戸生活協同組合が合併し、日本一の規模の灘神戸生活協同組合が誕生した。1991 年、組合員が 100 万人になり、創立 70 周年を機に「生活協同組合コープこうべ」に改称し、現在に到っている。さらに、1995 年には播磨生活協同組合と合併、そして 2011 年には大阪北生活協同組合と合併している。

生活協同組合コープこうべウェブサイトの「組織情報」の「歴史」では、「原点は『愛と協同』」として、生協の父・賀川豊彦の指導のもとに 1921 年に誕生したと書かれており、さらに「賀川

豊彦と生協について」のリンクをクリックすると「賀川豊彦物語—平和・人権・共生— ～その一生と生協活動～」のページへと導かれる。その内容は、「賀川豊彦って、どんな人？」と「生協活動と賀川豊彦」とに大別されるが、最後の箇所に「豊彦が説いた協同組合の中心思想」の直筆書の写真と簡単な説明が添えられている。

また、注（３）で紹介しているスライドの最後から２枚目では、「協同組合の中心思想」を７つの短い言葉で表現された賀川の直筆書が額に納められている写真が掲載されている。その書自体では言葉に番号をつけていないが、説明文のスライドでは便宜のために以下のように番号をつけている。合わせて説明文も加えておきたい。

「Ⅷ コープこうべが賀川豊彦から引継いだ生活協同組合の中心思想

- １．「利益共楽」 お金ではない安心、健康、福祉などの暮らしを向上させる利益を一人ひとりが力を合わせて分かち合い、ともに豊かに幸せになろうとすること
- ２．「人格経済」 営利追求の社会ではなく、人間の尊厳を確保し、人間中心の経済社会を確立させること
- ３．「資本協働」 資本はみんなで持ち寄ること。みんなで参加し、みんなが責任と権利を持つ仕組みでなければ協同組合は成り立たない
- ４．「非搾取」 自由平等で利益を分かち合える共存同栄の社会を創造すること
- ５．「権力分散」 権力が集中されることなく個人個人が人間としての主権が保証され、自分自身で自覚し自立し行動すること
- ６．「超政党」 協同組合は政党を超えた人と人とのつながりで成り立つ組織、主義主張ではなくみんなの幸せをお互いの力で作っていくもの
- ７．「教育中心」 人間的な生活を確立するためには意識向上が必要で、生活者一人ひとりの教養を広め高める教育が重要である」

さらに、コープこうべウェブサイト上には「コープこうべ 100 年史」がリンクで案内されている。これは 300 ページにわたる大著となっており、書名は『愛と協同を未来へ ^{あした} コープこうべ 100 年史』（2022 年 3 月発行）である。「あとがき」によれば、本書刊行の前の 70 年史『愛と協同の志』（1991 年発行）に続くものである。

４．一般財団法人 本所賀川記念館

一般財団法人 本所賀川記念館（所在地：東京都墨田区）の原点は、1923 年 9 月 1 日の関東大震災が起こった時に、賀川豊彦が被災者救援のため、神戸から東京本所の地に駆けつけて（9 月 4 日朝に横浜港着）セツルメント活動を開始したことである。10 月、東京市本所区松倉町に大テント（アメリカ赤十字社寄贈）をはり、本所基督教産業青年会を設立し、医療、保育、宿

泊、消費組合、給食、訪問看護、職業紹介、教育機関としての家政学校、夜間中学、産業学院（労働学校）⁽⁴⁾ その他多彩な社会事業を展開した。さらに、注目すべきことは、組合活動である。以下は、伊丹謙太郎によるものである。

「中ノ郷室庫信用組合や江東消費組合のほか、大工生産協同組合や家具生産協同組合、人力車組合のように自分たちで仕事をおこす生産組合など、相互扶助の精神によって地域を復興し、経済を回していこうという取り組みに次々と着手していきます。大阪で賀川を支えるグループの一人であった吉田源治郎は、本所の復興の姿を見て『まるで協同組合の博覧会のようだ』と感嘆します。」⁽⁵⁾

11 月には家族全員で東京本所へ転居してバラック（木造仮設建築）住まいをしている。

戦後の復興の中で、1969 年に建てられた本所賀川記念館が、本所基督教産業青年会の志を継承して、民間の児童館活動、地域活動を中心にその活動を再開した。

法人理念は以下のとおりである。

「賀川豊彦先生が生涯に亘りみずから実践し、主張してきた精神に沿い、

- ・ 隣人愛の精神に立つ
- ・ 地域住民、児童に奉仕する
- ・ 平和を大切にする

」

現在の事業として、主に学童クラブ（小学生）、児童クラブ（小学生～18 歳）、美術教室、コスモス会（高齢者のためのお弁当配食サービス）、公設民営施設の運営受託（指定管理者制度による）を行っている。

また、月 1 回の賀川研究会、年間 1 ～ 2 回の「賀川豊彦研究」を刊行している。

5. 公益財団法人 賀川事業団 雲柱社 賀川豊彦記念 松沢資料館

（1）雲柱社三法人

公益財団法人 賀川事業団 雲柱社 賀川豊彦記念 松沢資料館（所在地：東京都世田谷区）は、1924 年 4 月に賀川豊彦の病状が悪化したために東京本所から東京府荏原郡松沢村字上北沢へ^{えぼら}転居したことから始まる。正確には、いったん 1926 年に兵庫県武庫郡瓦木村に移住し、1929 年 11 月に再び松沢村に移り、その後はこの地に定着している。

ウェブサイトを見ると、事業主体に関して、雲柱社三法人として、公益財団法人 賀川事業団 雲柱社と並んで、社会福祉法人雲柱社と学校法人雲柱社 松沢幼稚園がある。

まず、「雲柱社」の名前の由来から入る。これは、聖書の「雲の柱」という言葉に由来している。今から約 3500 年前、エジプトで被抑圧民族であったイスラエル人の集団を、その地から脱出させ、豊かな新天地に移ることを神がモーセに命じた。その時に、さまざまな奇跡が起こっ

た。神は「彼らの前に行かれ、昼は雲の柱をもって彼らを導き、夜は火の柱をもって彼らを照らし、昼も夜も彼らを進み行かせられた」（旧約聖書・出エジプト記）。

賀川豊彦は、神が導く雲の柱のもとでいろいろな仕事をしてきた。1922年から戦争の直前まで出していた雑誌に「雲の柱」の名前を使い、戦後も1983年のNo.1から復刊している。また賀川の社会に対しての施策や事業を支える法人として、雲柱社を設立した。

それでは、三法人と関連事業を見ていこう。1931年4月に松沢幼稚園が開園し、初代園長は賀川豊彦である。日本基督教団（プロテスタント教会）松沢教会（牧師・賀川豊彦）と同時に創設され、平日は教会の礼拝堂を保育室に使用した。1938年に財団法人雲柱社を設立し、初代理事長は賀川豊彦である。これによって、松沢幼稚園やその他の保育園などの経営母体が財団法人雲柱社となった。

戦後の1953年に、社会福祉法人雲柱社を財団法人雲柱社から分化して設立する。なお、1960年4月23日に賀川豊彦召天（71歳）。さらに、1982年5月5日賀川ハル召天（94歳）。同1982年には、新幼稚園舎を落成したが、これは社会教育事業としての賀川豊彦記念松沢資料館との合併建築である。当資料館は博物館法における登録博物館である。そして、1983年に「学校法人雲柱社 松沢幼稚園」として認可される。

こうして三位一体でできあがった教会・幼稚園・資料館が、「賀川豊彦と松沢の教会・幼稚園・

写真2 賀川豊彦と松沢の教会・幼稚園・資料館（世田谷区・地域風景資産）



出所：世田谷区ウェブサイト・地域風景資産

資料館」として、2014年に世田谷区地域風景資産に選定された。写真2の正面は松沢教会（京王線・上北沢駅の南口より、徒歩3分：世田谷区上北沢3丁目8—14）である。向かって左側の道を進むと右手に松沢幼稚園（1階）、松沢資料館（2階）が現れる。

地域風景資産の特徴は次のように紹介されている。関東大震災の救援のために移住した賀川豊彦によって雑木林から開拓された。当初の教会と幼稚園は建て替えられているが、賀川により推奨された「自然教案」により、敷地内には当時からの樹木が多く残されている。資料館の2階広場には、当初の木造教会が保存されている。日本建築家協会2014年賞を受賞している。

さらに、地域風景資産の選定の背景等も述べられている。長くこの地にある教会と幼稚園であり、閉鎖的ではなく周囲と視覚的に連続した緑豊かな風景を形成している。賀川豊彦は関東大震災に起因した世田谷の歴史、東京の郊外開発を知る上での人物でもあり、賀川豊彦を通じた地域の歴史性を伝える活動にも期待される。

ここで改めて、社会福祉法人雲柱社の事業基本理念についてその前置きから触れておきたい。

「雲柱社は、キリスト教社会事業家・賀川豊彦によって設立された法人です。賀川は若き日にスラムに身を投じて貧しい人々の救済活動に取り組みました。やがてその活動は、人間の自立と共生を目指す、各種の社会運動や福祉事業へと発展して行きました。雲柱社は、このような賀川豊彦の精神と実践を継承し、キリスト精神を基盤として、時代の要請に応え、かつ、時代の先駆けたらんことを願いつつ社会福祉事業に従事しています。そこで、法人の事業基本理念を次のように定めます。（1999年12月24日）

社会福祉法人 雲柱社 事業基本理念

1. 私たちは、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を継承し、神と人に仕える仕事をします。
2. 私たちは、一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
3. 私たちは、常に利用者の立場に立って、そのニーズに応え、サービスの向上に努めます。
4. 私たちは、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。」

（2）松沢生活協同組合

上記の雲柱社三法人以外の事業組織として存在していた松沢生活協同組合を取りあげる。地元の小さな地域生協の登場である。以下は、『松沢生協67年の歩み』（公益財団法人 賀川事業団 雲柱社、2020年）によっている。

1947年3月、賀川豊彦を中心に上北沢の婦人会と松沢教会及び町内会有志が協力して松沢生活協同組合を結成し、松沢教会・大会堂前の通りに面した一角に誕生した。理事長は賀川豊彦である。それに先立ち、早くも1945年11月に賀川豊彦は日本協同組合同盟創立総会を開催し、

会長となっている。さらに、この同盟を母体にして、1951 年 3 月に日本生活協同組合連合会（略称：日協連、後に、日本生協連）を創立し、賀川豊彦は初代会長である。

1960 年に賀川豊彦が没した後、1961 年に松沢教会は財団法人雲柱社から教会敷地南側部分 100 坪の寄贈（教会敷地内の生協店舗使用地を含む）を受ける。そして、1962 年に松沢教会は松沢生協に対して「申入れ」を行った。その内容は、1. 賀川先生は禁酒を強く主張され、松沢生協が酒類を販売することを強く反対された。また、教会としても、その土地の一角で酒類の販売をすることに反対する。松沢生協での酒類の販売はなるべく速やかにやめてほしい。2. 教会は 6 年後に新しく賀川記念会堂を建築する計画を立てている。それまでに松沢生協はその店舗を他に移し、土地をあけていただきたい。

そこで、1965 年にスーパー式店舗（2 階建て、20 坪）開店となる。さらに、1982 年に賀川ハルが没した後、同年にまた大きな転機を迎える。赤字が続いて損金が増えむとともに、建物も老朽化し組合員の利用も少ないことから店頭販売を中止し、建物の新築が決まる。1983 年に新しく松沢生協ビル（鉄筋コンクリート 3 階建て、延床面積 277 m²）ができ、ビル 1 階の店舗を下馬生協に賃貸し、下馬生協上北沢店とし、2 階、3 階は 6 世帯の住宅として賃貸した。そして、2013 年に理事会は、時代の変化や理事一同の高齢化のため、松沢生協の存続は無理と判断し、解散の方針を決定し、2014 年 7 月に解散した。

（3）賀川豊彦記念 松沢資料館

a. 賀川豊彦について

賀川豊彦 松沢資料館ウェブサイトのトップページは次の言葉から始まる。

「愛と協同に生きた、賀川豊彦の足跡を伝える」

「賀川豊彦の思想と実践を後世に伝えるために、賀川豊彦に関する資料の蒐集、保存、公開、展示、その他の社会教育事業を行っています。」

そして、「賀川豊彦について」のページでは、約 8 分のビデオが視聴できる。これには、英語の字幕が付いている。次に、「賀川豊彦の略年譜」では、「立体年表」の動画を見ることができ。これは、静止画を動かしながら年代順に見せるものである。これ以外に、略歴もある。なお、賀川豊彦だけでなく、妻のハルも合わせた夫妻 2 人の詳しい年表が、公益財団法人生協総合研究所『生活協同組合研究』特集「賀川豊彦を現代に語り継ぐー賀川豊彦生誕 130 周年記念事業」2018 年 10 月号（Vol.513）に掲載されている。それは、菅谷明良「コラム 2 賀川豊彦・ハルの生涯と活動（年表）」（pp.51—54）である。

さらに、賀川豊彦の関係事業展開図および初期事業の PDF がある。この関係事業展開図はなかなか壮観である。横軸が時期区分で、左から初期、中期、現在となっており、縦軸が分野別

区分である。上から、キリスト教、幼児教育、救済事業、労働運動、社会運動、農民運動、協同組合運動、保険・共済金融事業、災害救援・支援活動、平和運動、著作活動、研究活動となっている。この展開図は、長男の賀川純基（松沢資料館初代館長）が策定したものであるが、下記に表記されている、注記では「作成：賀川豊彦記念館資料館連絡協議会」である（改訂版 2017.11.16）。同じく、この展開図および初期事業は岡本好廣「賀川豊彦という人物を今日的に捉える」『生協総研レポート』No.97 にも転載（pp.2—4）されている。

b. 桜美林学園設立

上記の展開図には書かれていない事業を一つ紹介しておきたい。それは桜美林学園（桜美林大学などの設置主体）設立のことであり、数年前に初めて松沢資料館を訪れた時に館内に展開図が掲示されているのを見て気づき、館員の方にはそのことをお伝えしている。

桜美林学園のウェブサイトで、「創立者 清水安三の思想と人生」を見ると、帰国直後に偶然出会った賀川豊彦（桜美林学園初代理事長）に現在の地を紹介され、教育活動を再開することを決意したとなっている。

同じく、桜美林学園消費生活協同組合のウェブサイトを見ると、「桜美林学園生協の理念と歴史」では、「清水安三先生と賀川豊彦氏」として2人の写真を並べて、次のように記述し、呼びかけている。

「桜美林学園は、創立者清水安三先生が賀川豊彦氏の紹介でこの町田の土地で創立しました。その賀川豊彦氏は日本の生協運動の父でもあり、協同組合を以て世界を理想社会にしようと考えた人です。この桜美林学園で生まれた生協だからこそ、“一人は万人のために、万人は一人のために”という協同の精神を大切にしたいものですね。」

なお、賀川豊彦のベストセラー『死線を越えて』を劇画にした本（全編、ひらがなの振り仮名つき）がある。それは、賀川豊彦献身 100 年記念事業 神戸プロジェクト実行委員会・企画監修『劇画 死線を越えて 賀川豊彦がめざした愛と協同の社会』（社団法人 家の光協会発行、2009 年）である。巻末に収録されている年表である【賀川豊彦の足跡】では、1946 年に桜美林学園設立、理事長就任となっている。また、【賀川豊彦の関係団体変遷図】では「保育」と並んで「教育」の欄があり、桜美林学園、平和学園と並んで、関西学院、聖和大学、啓明学院、同志社、八代学院、神戸女学院、神戸松蔭女子学院、頌栄保育学院がある。そして、本編の劇画の最後のほう（pp.174—175）で、賀川豊彦と清水安三の出会いが描かれている。その最後のシーンのコマの説明は次のようになっている。

「豊彦は清水に南多摩郡忠生村（現在の東京都町田市）にある建物を紹介した。清水はここを拠点にして桜美林学園を創設。豊彦は同学園の初代理事長に就任した。」

c. 松沢資料館の「資料」

松沢資料館のまさに「資料」はどうなっているかに進む。「資料をお探しの方へ」に進むと、当資料館について、私立の登録博物館として開館したが、その本質的な機能はアーカイブズだと説明している。賀川豊彦の生前に使用していた蔵書や、日記、原稿、メモ、書簡などの貴重な資料を多数保存している。これらは館則に基づいて公開されており、研究や取材調査に供している。また、レファレンス・サービスとして、当館収蔵品・書籍の検索、コピー（有料）、賀川豊彦に関する情報の提供などを行っている。

さらに、賀川豊彦記念松沢資料館 収蔵品データベースである。このオンラインデータベースは、2009年「賀川豊彦献身100年記念事業」の一環として、賀川豊彦記念松沢資料館と賀川記念館（神戸）との協同により構築されたデータベースである。もう一つ、英語資料デジタルアーカイブズがある。こちらも、松沢資料館と賀川記念館（神戸）とで共同開発したもので、賀川豊彦に関する英文資料を閲覧できるサイトである。ただし、今のところは試験運用で、将来的にはデータベース化していくように計画中である。

なお、2021年10月、賀川豊彦記念松沢資料館の協力の下、株式会社キリスト新聞社が企画・監修した、「賀川豊彦オンライン資料集」が公開（有料）されたことも画期的である。

また、「施設利用案内」では、施設機能として3つを挙げている。

第1に、ミュージアムである。2F展示フロアで、賀川豊彦の生涯と、彼が関係した社会事業についての展示をしている。その中には、再現空間コーナーとして、1931年に建立された旧松澤教会を移築して、内部を公開している。晩年の賀川豊彦の肉声が流れ、当時の雰囲気を体験できる。

第2に、アーカイブズである。1F収蔵庫内で、一般公開はしていないが研究目的での申し込みの場合は見学可能である。原資料庫（手稿保管室）：調湿部材で造られた資料保管庫に、原稿資料を保存、メディア・アーカイブズ：映像資料、音声資料、写真資料などを保存、アーカイバル・コレクション・コーナー：賀川家寄贈の、遺墨、衣服、教材などの不定形原資料のほか、資料館で独自に蒐集した資料を収蔵、から構成されている。

第3に、ライブラリーである。同じく、1F収蔵庫内で、一般公開はしていないが研究目的での申し込みの場合は見学可能である。明治学院文庫：明治学院より寄託された賀川豊彦所蔵書、個人寄贈文庫、書誌文庫から構成されている。

次に、「刊行物・書籍」で、資料館定期刊行物の案内がある。

第1に、戦前に刊行された雑誌『雲の柱』年刊が1983年11月から復刊して発行されている。第1号からの表紙写真と目次を見ることができる。

第2に、賀川豊彦記念松沢資料館セミアニュアルレポート「賀川豊彦と協同組合」（年2回刊）

である。2014 年春号（3 月刊）が創刊号である。全紙面がダウンロードできる。

第 3 に、賀川豊彦記念松沢資料館「資料館ニュース」である。年 2、3 回の不定期刊で 2021 年 12 月発行が No.93 である。No.70 から全紙面がダウンロードできる。

d. 賀川豊彦賞と出版助成

先に、関連団体の一つであった松沢生活協同組合の 1947 年設立と 2014 年解散について見たが、その解散時に松沢生活協同組合は残余財産を「賀川豊彦にお返しするつもりで」と公益財団法人賀川事業団雲柱社（賀川豊彦記念松沢資料館）に寄贈した。この寄贈財産を基に 2016 年度から賀川豊彦賞と出版助成の事業を遂行している。

第 1 に、賀川豊彦賞の趣旨である。私たちの社会は賀川豊彦の時代から大きく変貌を遂げてきたが、貧富の格差、人間の疎外、互助精神の希薄化など、いま新たにさまざまな形で深刻な問題を構造的に抱えている。社会のひずみの中で、国や地域社会の将来を展望し、先駆的なプロジェクトを立ち上げ、社会活動を展開している団体もしくは個人を顕彰する。この趣旨に沿って、選考委員会が審査した結果、年度によっては該当なしの場合もある。賞金は 1 年に総額 100 万円である。最も新しい、2021 年度・第 6 回賀川賞の受賞団体は特定非営利活動法人 POSSE である。POSSE（ポッセ）は若者の労働・貧困問題に取り組む NPO 法人である。

第 2 に、出版助成の趣旨である。賀川豊彦は日本の近代化の過程で、キリスト教伝道をはじめ、セツルメント、保育事業、労働運動、農民運動、協同組合運動、平和運動など多方面にわたる社会運動に先駆的な働きをしてきた。公益財団法人賀川事業団雲柱社は現代と将来における賀川豊彦理解の深化発展に寄与するために、賀川豊彦・賀川ハルに関する研究および著作の出版を助成する。この趣旨に沿って、出版助成審査委員会が審査するが、年度によっては応募なしの場合もある。助成金額は 1 件につき 100 万円を上限に出版助成審査委員会がその都度定める金額とする。

二 賀川豊彦の現代における復活の可能性を求めて

1. 1988 年賀川豊彦生誕 100 年記念と 2009 年賀川豊彦献身 100 年記念

近年の賀川豊彦への接近の前触れは、1988 年の賀川豊彦生誕 100 年の催しである。賀川豊彦記念講座委員会編『賀川豊彦から見た現代』（教文館、1999 年刊）もその一つである。これは、1988 年、賀川豊彦生誕 100 年を記念して行われたいくつかの講演およびその後 10 年の間に行われた賀川記念講演を納めたものである。本書の「あとがき」（金井信一郎）によれば、賀川豊彦生誕 100 年記念のために組織された実行委員会（委員長隅谷三喜男）には賀川が生前に関わっ

た 40 を越える団体の代表が参加した。この年には、「総合・平和・未来」のテーマのもとに、東京、大阪、神戸、徳島、さらにはアメリカでも、講演会やシンポジウムなど多彩な催しが行われた。

そして次に、賀川豊彦が神戸のスラム街に単身で移住し、捨て身の献身と伝道の生活に入った 1909 年を讃えての 2009 年「賀川豊彦献身 100 年記念事業」である。ここから、この事業を引き継ぐと、2010 年に賀川豊彦関係団体・協同組合連絡協議会を立ち上げることになった。連絡協議会初代会長だった青竹豊（日本生活協同組合連合会・執行役員）によれば、発足当初、10 団体（神戸の賀川記念館、雲柱社関係、共栄火災海上保険、国際平和協会、全国労働金庫協会、JA 共済連、全労済、鳴門市賀川豊彦記念館、日本コープ共済連、日本生協連）だったが、2015 年には JA 全中はじめ 30 近い団体が参加している。⁽⁶⁾ ここからすれば、2010 年を 21 世紀における賀川豊彦「復活」⁽⁷⁾ の年と考えてもよいのではないだろうか。不死鳥のごとく、「一粒の麦」は多くの実をもたらしている。

さらに、青竹は、賀川の「経済運動と精神運動の統一体としての協同組合」という主張について次のように紹介している。

「賀川は、協同組合運動は貧困や困難に実践的に立ち向かう経済運動であり、それを支えるのは『互助相愛』『兄弟愛』などの精神運動であると述べています。協同組合は、経済運動と精神運動の統一体（『助け合いの組織』『協同愛の運動』）ということです。…中略…さらに、賀川にとって、経済運動は全意識活動や生活の基礎を支える大切なものでしたがって、それを担う協同組合は『人間生活の全部門を包含』するものでなければならないとし、保険、生産者、販売、信用、共済、利用、消費の 7 つに協同組合を類型化するとともに、その社会全体への展開を提唱しています。」⁽⁸⁾

2. 2012 年国際協同組合年記念

2012 年は国連の国際協同組合年である。国際的な動きとしては、これに続いて 2016 年にユネスコ（国連教育科学文化機関）が協同組合を無形文化遺産と登録したことが挙げられる。

2012 年の国際協同組合年のプレ企画として、協同組合 6 団体（全国共済農業協同組合連合会、共栄火災海上保険株式会社、全国労働者共済生活協同組合連合会、社団法人全国労働金庫協会、日本コープ共済生活協同組合連合会、日本生活協同組合連合会）および賀川豊彦記念松沢資料館の協力により実施された連続公開フォーラム「賀川豊彦と協同組合文化」が開催され、その報告集である賀川豊彦記念松沢資料館編『賀川豊彦と協同組合文化』2012 年刊が発行されている。

3. 近年の賀川豊彦本とその周辺

上記のように、一方では賀川豊彦の生誕と献身を記念する行事、他方では国際協同組合年を記念する行事が相まって、近年になって、賀川豊彦をめぐる出版物が次々と刊行されている。

(1) 賀川豊彦の著作

a. 賀川豊彦『友愛の政治経済学』（邦訳書）

まず、賀川豊彦が英語で執筆した著書の邦訳書である。原著は Toyohiko KAGAWA, *Brotherhood Economics* (London 1937) であり、その全訳書が、賀川豊彦著『友愛の政治経済学』、発行元・日本生活協同組合連合会出版部、発売元・コープ出版（株）、2009 年刊である。監修者は野尻武敏、翻訳は加山久夫・石部公男である。

原著はアメリカ発の金融恐慌で世界が苦しめられていた時期に刊行されたものであることは、2008 年のアメリカ・リーマンショックを契機とする、同じく世界的な金融恐慌に見まわれた現代と通じるところである。

b. 賀川豊彦『協同組合の理論と実際』（復刻版）

賀川豊彦『協同組合の理論と実際』復刻版が 2012 年に刊行された。新書版で、その帯紙は「2012 国際協同組合年 協同組合に関わるすべての人に！」と書かれている。発行元は日本生活協同組合連合会出版部であり、底本はラツキー文庫『協同組合の理論と実際』（コバルト社、1946 年）である。この著作は『賀川豊彦全集』未所収となっている。

ここでは、協同組合における七種組合を説明している。

- (一) 生産組合（生産者を主体として）
- (二) 消費組合（消費者を主体として）
- (三) 信用組合（金融のために）
- (四) 販売組合（消費者と生産者の連携として）
- (五) 共済組合（利用厚生のため、互助互惠機関）
- (六) 保険組合（組合員の将来に対する保証）
- (七) 利用組合（各種の利用のために）

さらに、人体と比して考えてみるとよく分かるとして、説明を続ける。「筋肉は生産組合である。消化器は消費組合、血行は金融等を司る信用組合である。呼吸は交換等を掌握する販売組合であり、泌尿器は共済組合である。また骨格は、全身を支えている保険組合、神経系統は権利を運用する利用組合に当たる。こう考えてくると人体の機能の一つを欠いてもならぬようにこの七種組合が身体のそれのごとくよく結合統治されるとそこに健全な大活動が生

まれるのである。そして、これが社会的協同体の道徳的結合とならなければならぬ。」⁽⁹⁾

もう一つ挙げておこう。協同組合の実際の箇所、協同組合運動の教育と訓練について取りあげている。その中に、「会計検査を厳重にせよ」という項目がある。それは以下である。「協同組合運動は、金銭上の運動であるから、一文なりとも公金を私しないように、整然たる会計簿を備えておく必要がある。多くの協同組合の失敗は、整理の不秩序からきている。幹部の中に、必ず会計事務に堪能な人と、宣伝の上手な人と、商品に明るい人の三人を置いてかからねばならない。この三人が協力一致して始めれば大丈夫である。しかしそれだけそろったからといって性急に始めてはならぬ。」⁽¹⁰⁾ このような実務を重視する視点は大切に納得させられる。

c. 松野尾 裕編『希望の経済—賀川豊彦生活協同論集』

次に、「賀川豊彦生誕 130 周年記念」と銘打った、松野尾 裕編『希望の経済—賀川豊彦生活協同論集』緑蔭書房、2018 年である。これは、賀川豊彦記念松沢資料館監修である。

本書の内容⁽¹¹⁾は、生活協同の思想と協同社会づくりの構想である総論から始まり、各論として、消費組合、医療組合、そして協同組合保険・共済を取りあげる。さらに、農村再建論がある。その次に、受け継がれる言葉として、世界平和が語られる。

(2) 賀川豊彦本

a. 隅谷三喜男『賀川豊彦』

隅谷三喜男『賀川豊彦』(岩波現代文庫、2011 年刊)はいくつかの変遷をたどっている。もとは明治学院大学における賀川記念講演が出発点となっている。原著は 1966 年に日本基督教団出版部より「人と思想シリーズ」の 1 冊として出版され、次に 1995 年に岩波書店の同時代ライブラリーより刊行された。本書もこのような形で「復活」することになった。本書は、神戸の貧民窟(スラム街)での伝道と救貧の生活、労働運動、農民運動、無産政党運動から消費組合運動、さらに「神の国」運動へ転身する、賀川豊彦の全体像を評伝として描いている。

b. 『劇画 死線を越えて』

『劇画 死線を越えて 賀川豊彦がめざした愛と協同の社会』は、1920 年、賀川豊彦が 32 歳の時に、出版したベストセラー『死線を越えて』(英語、ドイツ語、フランス語、スウェーデン語など 13 カ国で出版)が基になっている。これは、最初、雑誌『改造』に連載されたものである⁽¹²⁾。

本書(劇画『死線を越えて』)の帯紙には、賀川の写真とともに、「賀川豊彦を知っていますか。」という呼びかけがあり、「貧困と格差を解消し平和な協同社会をめざしたその足跡を読む」

と続く。本書は、賀川豊彦献身 100 年記念出版である。企画監修は賀川豊彦献身 100 年記念事業 神戸プロジェクト実行委員会、作画は藤生ゴオ、脚本は大崎悌造であり、2009 年に社団法人 家の光協会から発行された。なお、著作権は社会福祉法人イエス団 賀川記念館にある。

本書は誰にでも取つきやすくするために、劇画の形で提供されているが、表紙のタイトルも含めて、漢字にはすべてひらがなで振り仮名が付けられている。また、その構成は、最初と最後の数ページをプロローグとエピローグとして、農作業中の農家の男性が孫息子に賀川豊彦の生涯について語る形式を取っている。それにしても、こんな何日もかかるような長い内容の話を短い休憩時間でどうやってできたのかと、思わずツッコミたくなってしまう。もともと、荘子の「胡蝶の夢」のような見立てなのかもしれない。

本書の末尾には、さらに「なぜ今、賀川豊彦か」を賀川豊彦献身 100 年記念事業 神戸プロジェクト実行委員長である今井鎮雄が書いている。1939 年にアメリカで『The Three Trumpets Sound』（世界の三聖人）が発刊され、そこではアルベルト・シュバイツァー、マハトマ・ガンジーと並んで賀川豊彦が取りあげられていたことを紹介している。その次には、【賀川豊彦の足跡】として年表である「賀川豊彦とハル、その仲間たちの歩み」が続く。それから、【賀川豊彦の関係団体変遷図】である。これは、横軸が期間、縦軸が分野別の団体で整理されている。保育、教育、隣保事業、医療、金融保険共済、社会運動、労働運動、農民運動、協同組合運動、キリスト教、平和運動・世界連邦が縦軸である。最後は、【賀川豊彦献身 100 年記念事業 神戸プロジェクト実行委員会の構成団体】が列挙され、その連絡先が書かれている。

c. 『賀川豊彦入門』

『賀川豊彦入門—新しい時代を切り拓く先覚者—』は賀川豊彦記念出版会が 2014 年に出版した著作である。本書は、鳴門市賀川豊彦記念館館長、同事務局長、阿波の歴史を小説にする会会長など、5 人の NPO 法人賀川豊彦記念鳴門友愛会研究部員によってできあがった。

d. 『賀川豊彦』（ブックレット）

『賀川豊彦 「助け合いの社会」を目指した功績を知る』は、2018 年に発行された。監修者は賀川豊彦記念松沢資料館、編者は日本生活協同組合連合会であり、発行元は日本生活協同組合連合会である。この本は、賀川豊彦について学ぶ「入門書」とするとまず断っている。第 1 章 献身の巻、第 2 章 防貧の巻、第 3 章 友愛の巻、第 4 章 協同の巻から構成されている。

大きな特徴は、「この本の見方」で説明しているが、2 匹のワンちゃん（犬）のアニメ・キャラクターが案内することである。表紙にも登場しているが、サクラちゃんと香川先生ならぬカガワン先生（メガネと白ひげ）の問答形式である。見開きの左側のページで、最初にサクラちゃ

んが質問をする<Question！>から始まり、それに対してカガワン先生が答える<Answer！>。そして、右側のページで、より詳しく知るために解説をしてもらうことになっている。こりゃ、カナワン！と言いたくなる仕組みである。

最後に、「さらに学びたい人へ」が付いている。入手しやすい書籍として、(1) b.で挙げた賀川豊彦『協同組合の理論と実際』に続いて、賀川豊彦著作選集全5巻（一般財団法人アジア・ユーラシア総合研究所）が紹介されている。その次は、賀川豊彦関係資料収蔵施設一覧であり、先述した賀川豊彦記念館資料館の5館である。

（3）賀川豊彦 雑誌・研究誌特集号

a. 『特集 賀川豊彦 その現代的可能性を求めて』

『特集 賀川豊彦 その現代的可能性を求めて』は、季刊 at [あっと] 15号、2009年4月号である。編集は株式会社オルター・トレード・ジャパン／『at』編集室、発行・発売は株式会社 太田出版である。以下のまえがきの後に、11本の論稿が寄せられている。

「日本近代を代表する社会運動家にしてキリスト者、小説家でもあった賀川豊彦は、戦後社会においてほとんど忘れ去られている巨人である。労働運動や生活協同組合運動を始めとする彼の膨大な業績の意義を捉えなおすことは、苦悶する資本主義と国家を内発的に超えるオルタナティブな回路を準備するだろう。」

b. 『特集 賀川豊彦を現代に語り継ぐ』

『特集 賀川豊彦を現代に語り継ぐ—賀川豊彦生誕130周年記念事業』は、公益財団法人生協総合研究所『生活協同組合研究』2018年10月号である。先述しているが、「賀川豊彦・ハルの生涯と活動（年表）」として、賀川豊彦だけでなく、ハルと合わせて夫妻共通の年表になっている。賀川夫妻の生年は同じ1888年（明治21年）である。豊彦は7月10日、ハルは3月16日に生まれている。対して、2人の没年は大きく違っている。豊彦は1960年（昭和35年）に71歳である。ハルは1982年（昭和57年）に94歳である。

また、賀川ハルを取りあげた論稿もある。岩田三枝子「賀川ハル—女性のライフキャリアプランからみるハルの生き方—」である。

もう一つ取りあげておきたいのは、2018年に日本協同組合連携機構（JCA: Japan Co-operative Alliance）が発足したことである。青竹豊「コラム3 先人たちの思いを受け継ぎ持続可能な地域社会づくりへ」は今後の協同組合セクターとしての展開への期待を語っている。

なお、このJCAのウェブサイトでは、協同組合間の連携事例として、以下を挙げている。産消提携型、事業連携型、地域連携型、学習会・イベント型、災害支援型、人材育成型である。

c. 『日本と英国の協同組合史を振り返る』

『日本と英国の協同組合史を振り返る—2つの公開研究会より—』は公益財団法人生協総合研究所『生協総研レポート』No.97（2022年3月）の第1部は、7月30日に開催された『消費生活協同組合の日』の登録を記念して～改めて戦後日本の生協史を学ぶ～という主題の公開研究会の内容を収録している。この日は、敗戦後の1948年7月30日、消費生活協同組合法（生協法）が交付されたことにちなみ、日本生活協同組合連合会が創設70周年となった2021年の3月、日本記念日協会に申請し、4月に登録されたものである。

岡本好廣「賀川豊彦という人物を今日的に捉える」には、先述したように、賀川豊彦関係事業展開図および初期事業が転載（pp.2—4）されている。

おわりに

以上に見た、「賀川豊彦の軌跡と奇跡」は、賀川が時代とともに常に前に突き進んできたことを示している。そして、実はこの「賀川豊彦の軌跡と奇跡」は、近年新たに復活して、現在も進行中である。そのことは、100年生誕記念と100年献身記念のさまざまな催しが賀川豊彦記念館資料館の5館の事業展開と連携して行われていることにも現れている。

それらと併行して、賀川豊彦に関する劇画や入門書、概説書、研究書とともに、賀川豊彦自身の著作も邦訳や復刻版、論集として復活に到っている。

注（7）で紹介したように、賀川豊彦自身が、「死線（4線）だけでなく、7線までこえるのだ」と語っていたという、強靱な心意気はなおも持続しているようである。

賀川豊彦の展開した社会運動の分野は目を見張るほどに広い視野に連なっている。それでもなお、賀川の構想した未来の協同社会への旅はまだ道半ばであることも事実である。

「豊彦」（豊かな人間）という名前が示すように、これまでにに関わり、造りだしてきた景色は、まさに「豊穡な世界」である。日本語としても通用しているクリエイターは、英語ではcreator（創作者）であるが、大文字で始まり、定冠詞が付けばthe Creator（造物主）、すなわちGod（神）を表すことを想起させられる。

さらに、元来病弱であり、眼病、蓄膿など病苦を抱えながらも前に進んでいく賀川豊彦の姿は、重い十字架を背負い、荊冠をかぶせられて刑場であるゴルゴタの丘へと向かうイエス・キリストと二重映しである。そして、この十字架は、愛と受難、献身の象徴であり、信仰の証しともなっている。クリスチャンならば、賀川豊彦をイエス・キリストの再臨ととらえてもまったく不思議ではない。ここからすれば、賀川豊彦の近年の「復活」は、まさにイエス・キリストの再臨（「復活」）としての賀川豊彦の再度の「復活」、すなわち、イエス・キリストの（「復

活』)² <「復活」の二乗>と考えてもよいだろう。

もう一つ付け加えるならば、フリードリヒ・エンゲルスが『空想から科学への社会主義の発展』(1880 年刊)の中で、サン・シモン、フーリエと並んで、3人の偉大な空想的社会主義者としてあげているイギリスのロバート・オーウェン(1711年生—1858年没)との対比である。エンゲルスによる、オーウェンについての記述を挙げてみよう。

「二九歳の一工場主が改革者として登場した。彼は、崇高なまでに子供らしい単純な性格の人で、同時に、まれにみる天性の人間指導者であった。この人、すなわちロバート・オーウェンは、人間の性格は一方では、生まれながらの体質の産物であるが、他方ではその生涯をつうじての、とりわけ発育期におけるその人の環境の産物である、という唯物論的啓蒙思想家の学説を身につけていた。」⁽¹³⁾

「一八〇〇年から一八二九年まで、スコットランドのニュー・ラナークの大紡績工場を、業務執行委員として、同じ方針で、ただまえよりもいっそう大きな行動の自由をもって管理し、ヨーロッパ中の評判になったほどの成功をおさめた。はじめはきわめて雑多な、しかも大部分はひどく墮落した分子からなりたっており、しだいに増加して二五〇〇人にもなった住民を、彼は完全な模範集落^{コロニー}にかえてしまった。そこでは、泥酔も、警察も、刑事裁判官も、訴訟事件も、貧民救済も、事前の必要も、まったく見られなかった。しかもその方法はといえば、たんに、人々をもっと人間にふさわしい環境に移してやったということ、とくに成長中の世代を注意ぶかく教育させたということだけである。彼は幼稚園の発案者だったが、ここではじめてそれを実行に移した。二歳になると子供たちは幼稚園にはいった。そこでは彼らは非常に楽しくすごしたので、彼らを家につれかえるのに骨がおれるほどだった。」⁽¹⁴⁾

「新しい強大な生産力は、これまではただ個々人を富まして大衆を奴隷化するのに役だってただけであるが、オーウェンにとっては、社会改造の基礎を提供したのであり、万人の共有財産としてただ万人の共同の福祉のために働くべきものであった。」⁽¹⁵⁾

「彼は、直接に労働者階級に呼びかけ、彼らのあいだでなお三〇年も活動しつづけた。イギリスで労働者の利益のためにおこなわれた社会運動やほんとうの進歩はすべて、オーウェンの名と結びついている。こうして五年間努力したのちに、彼は一八一九年には工場における婦人・児童労働を制限する最初の法律を成立させた。こうして彼は、イギリス全体の労働組合が単一の大労働組合連合に合同したときの最初の大会の議長をつとめた。こうして彼は、完全な共産主義的社会制度にいたる過渡的方策として、一方では協同組合(消費協同組合および生産協同組合)を設立した」⁽¹⁶⁾。

まるで、賀川豊彦についてエンゲルスが語っているのではないかと錯覚させるほどに酷似し

た特徴が見られる。つまり、賀川豊彦はオーウェンの再来であるとも考えられる。

今後も、賀川豊彦（そして、オーウェン）の精神を体現できる世界を多くの人が協同して造りあげたいものである。

注

- (1) 高橋真樹『日本のSDGs それってほんとにサステナブル？』大月書店、2021年、pp.61—67
- (2) 賀川豊彦記念館は鳴門市賀川豊彦記念館だけではない。その他に、賀川豊彦記念・松沢資料館、コープこうべ・協同学苑史料館、社会福祉法人イエス団・神戸賀川記念館、一般財団法人・本所賀川記念館がある。これらの5つの記念館は賀川豊彦記念館資料館連絡協議会（通称：五館連絡協議会）を構成しており、それぞれのウェブサイト上の「関連団体へのリンク」の最初にこの五館連絡協議会に属する「各館のサイト」を挙げている。
- (3) 社会福祉法人イエス団・賀川記念館（所在地：神戸市中央区）ウェブサイトの中の「賀川豊彦資料室」の「賀川豊彦について」の項目で挙げている『愛と協同』を基調とした協同組合運動の原点とは《コープこうべ創設者・賀川豊彦氏の社会活動から基本思想を学ぶ》（73枚のスライドと詳細な説明文）の最後のスライドでは次のように記している。

IX コープこうべの基本思想

「愛と協同」

愛は相手のことを想うこと

協同はみんなですること

目的はみんなが平等に幸せになること

そのためには

「一人が万人の為に、万人は一人の為に」

コープは組合員の願いを実現するところ

- (4) 伊丹謙太郎「協同組合運動を軸とした賀川豊彦の思想と実践—素描」公益財団法人生協総合研究所『生活協同組合研究』2018年10月号、p.24。
- (5) 同上、pp.24—25
- (6) 青竹 豊「世界史的課題と協同組合」賀川豊彦記念松沢資料館セミナーレポート『賀川豊彦と協同組合』2015年秋号（9月刊）第4号、1面
- (7) 隅谷三喜男『賀川豊彦』岩波現代文庫、2011年の解説：小林正弥「愛の実践者・賀川豊彦の思想的意義—コミュニタリアニズム的観点から—」では、2010年は「賀川の復活の年だったと言えよう」（p.234）と述べている。ただし、2009年の「賀川豊彦献身100年記念事業」を2010年と取り違えた上での表現であるのは残念である。

また、以下の事柄も想起させる。賀川豊彦（日本生協連会長）が亡くなった（4月23日）ときの日本生協連の週報第30号（1960年5月10日発行）の冒頭の記事を『松沢生協67年の歩み』公益財団法人 賀川事業団雲柱社、2020年、83ページに転載している。そこでは、賀川会長はもともと身体は丈夫ではなかったが、伝道と社会運動に一身をささげなかで、異常なまでにつよい精神力でこれまで幾度となく医者もみはなした死地を脱出してきており、賀川本人が「死線（4線）だけでなく、7線までこえるのだ」と語っていたと報じている。50年後の「復活」である。

- (8) 注（6）に同じ。
- (9) 賀川豊彦『協同組合の理論と実際』復刻版、日本生活協同組合連合会出版部、2012年、pp.102—104。
- (10) 同上、pp.131—133。
- (11) 本書の編者である松野尾 裕は、「まえがき」で日本の格差と貧困を取りあげて、無貯蓄の状況について述べている。「日本では20数年前には無貯蓄（金融資産を持たない）世帯は全体の1割を切っていたものが、今や夫婦世帯で3割強、単身世帯では5割にも達しています（2017年、金融広報中央委員会調べ）。」（まえがき p.1）

しかし、この数値は過大である。日本銀行内に事務局を置く金融広報中央委員会の「家計の金融行動に関する世論調査」（以下、「金融行動」と略する）を利用していると思われるが、まずこれはあくまで「世論調査」であって、「統計調査」ではない。厚生労働省の「統計調査」である「国民生活基礎調査」（以下、「国民生活」と略する）の3年毎の大規模調査の「貯蓄調査票」と比較してみよう。比較年を2016年とすると、標本数は「金融行動」の2人以上世帯は7808世帯で回収率は44.8%、単身者世帯は2500世帯でインターネットモニターによる。「国民生活」の全世帯の標本数は約5万世帯で回収率は約7割である。その結果、「金融資産を持たない」は、「金融行動」の2人以上世帯は30.9%、単身者世帯は48.1%である。これに対して、「国民生活」の全世帯では14.9%である。調査方法の性格が異なっているが、数値の違いは大きい。もう少し慎重な取り扱いを望みたい。

(12) このあたりの事情は、『劇画 死線を越えて』でも描かれている（pp.63—65）。

(13) フリードリヒ・エンゲルス著、寺沢恒信訳『空想から科学への社会主義の発展』（新訳）大月書店（国民文庫）、1971年、p.69。

(14) 同上、p.70。

(15) 同上、pp.71—72。

(16) 同上、p.73

参考文献

本文で取りあげた以外の参考文献を挙げておく。

財団法人 雲柱社・社会福祉法人 雲柱社・学校法人 雲柱社編『雲の柱に導かれて—雲柱社の歩み— 雲柱社 70 年史』雲柱社三法人 70 年史編集委員会発行、2012 年